2017年春のビーチクリーンアップ

清原 久和（東船大 N16）

4月23日（日曜日）、昨夜半より降り始めた雨も日付が変わるころには上がり、朝からすがすがしい青空が広がる鵠沼海岸、恒例のＪＥＡＮ（Japan Environmental Action Network）主催の春のビーチクリーンアップ活動が開催された。

海洋会ボランティアクラブは本活動が開始されて3年目の平成5年5月より参加、以来24年間継続して参加してきました。今回も全体では110名の参加があり、10名の海洋会会員に加え、本年度より東京海洋大学に開設された「海洋資源環境学部」の新入生、女子2名を含む学生10名が参加し、ライトブルーのヴェスト姿で若者らしく溌溂と活動してくれました。

開会に先立ち行われた、海洋汚染、特にマイクロプラスティックによる海洋生物の生存危機に関するJEAN吉野さんのパネル説明にも、熱心に耳を傾けていた姿が印象的でした。

今回の活動はいつもの区域に加え、前日の雨で運ばれてきたらしい大量のゴミが残っている引地川河口にも、急遽拡大して実施されました。

海岸ゴミは、海に出て、海流に乗り日本の他地域の海岸へ、更には太平洋にでてハワイやアメリカ西海岸へと拡散されていきます。海岸ゴミの一番厄介なところです。

今回も、JEAN事務局の判断で、あの引地川河口の大量のゴミが海に流れ出てしまう前に、皆でクリーンアップできたことは幸いでした。

最後に、この日集めたゴミは、各自持ち寄り仕分け、分類しました。内訳は、不燃物29袋（55.9kg）、可燃物19袋（70.1kg）、たばこ吸い殻フィルター2,035本でした。

終了後は隣接する海浜公園に移動し、会員と新入生との懇親の場が設けられました。

海洋会本部より差し入れられたおにぎり、サンドイッチと飲み物が配られ、全員の簡単な自己紹介の後、本活動にスタート時から携わってこられた北澤昌永氏（東船大 Ｎ３）の、当会の歴史・意義等についての説明がありました。特に、秋のビーチクリーンアップ活動についての説明は、学生諸君の興味を引いたようです。

引地川河口のクリーンアップ

この秋の活動は、ワシントンＤＣに本部を置く世界的自然環境保護団体Ocean Conservancyの主催するInternational Coastal Cleanupの一員として参加するもので、日本のみならず世界中の海岸で、一斉にビーチクリーンアップが行われます。そして、鵠沼海岸のみならず、北は北海道から南は九州・沖縄までの日本の各地で集められた漂着・散乱ゴ

ミの集計結果は、JEAN の手で纏められ、Ocean Conservancy に報告され、世界的海洋ゴミ問題解決のための普及・啓発、さらには施策立案等に役立てられます。

学生諸君、また秋も是非、鵠沼海岸に来てください。

本年度秋のビーチクリーンアップは、2017 年 9 月 9 日（土）（雨天の場合は 9 月 10 日（日）に順延）です。多数の海洋会会員の皆様の参加をお待ちしています。

秋の鵠沼海岸でお会いしましょう！！

JEAN のみなさん

海洋会と東京海洋大学の学生

東京海洋大学の学生

参加者

小田島　厚、北沢　昌永、神谷　陽一郎、清原　久和、白石　道也、杉野　忠夫、二宮　弘、橋本　進、林　作治、早津　義彦（以上 10 名　海洋会）

石井　満里奈、熊埜御堂　凌佑、黒谷　悠吾、小林　瞭、清水　良弥、西澤　岳人、前田　将吾、水上　紫織、山崎　優介、渡部　圭（以上 10 名　東京海洋大学）